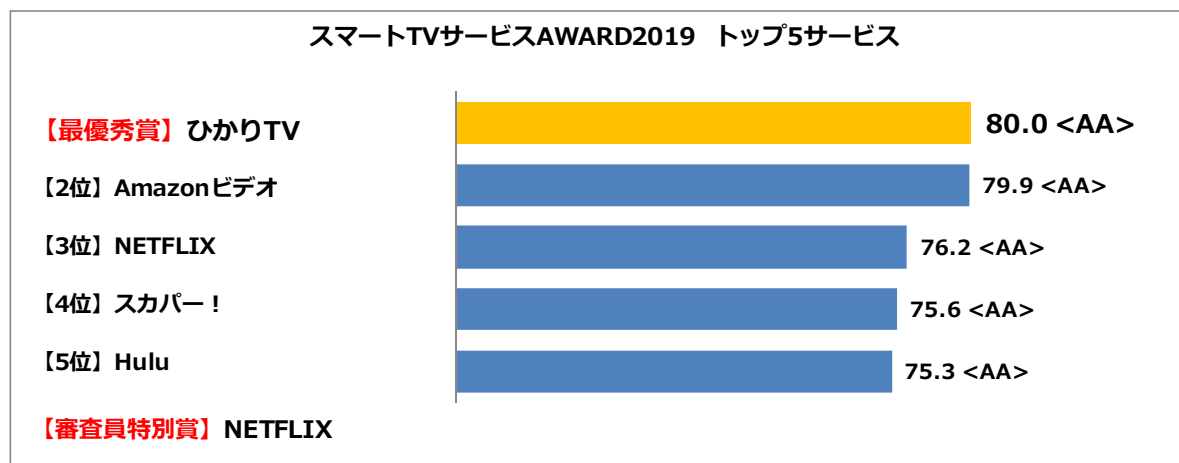


「スマート TV サービス AWARD」、ひかりTVが 9 年連続トップ —Amazon ビデオが 0.1 ポイント差の 2 位—

- Amazon ビデオ、NETFLIX がオリジナルコンテンツ制作に注力し躍進
- ひかりTVは多様なサービスをまとめるプラットフォーム構築力で高評価
- 今後の課題はスマートフォン中心の視聴スタイルに合わせた対応

MM総研(東京都港区、所長 中島 洋)は優れた映像配信サービスを表彰する「スマート TV サービス AWARD2019」の調査を実施し、有識者会議による最終審査を終えて調査結果を発表した。NTT ぷららが提供する「ひかりTV」※が 9 年連続の最優秀賞となり、前年の 6 位から 3 位にランクアップした「NETFLIX」が審査員特別賞を受賞した。



■Amazon ビデオや NETFLIX、オリジナルコンテンツ制作に注力し勢力を拡大

本調査では主要な 10 事業者について、8 分野 32 項目に関する評価を実施、各評価項目の獲得スコアにもとづきランキングした。審査過程においては、2,000 人を対象にしたユーザーのアンケート調査を踏まえ、有識者会議による最終審査を経て、上位サービスを選出。総合的に最も評価の高いサービスを「スマート TV サービス AWARD2019」の最優秀賞とする。オリジナル性や分かりやすい操作性などの質の高いコンテンツを取り揃えるなど注目度が高まっている新サービスを選び、審査員特別賞とした。

今回の審査では映像配信サービスをはじめ豊富なコンテンツを提供するひかりTVが、僅差ながら連続して首位の座を守った。Amazon ビデオはひかりTVに 0.1 ポイント差まで迫り、NETFLIX も昨年の 6 位から 3 位にランクアップするなど、海外勢が勢力を伸ばしている。

■ひかりTV、多様なサービスをまとめるプラットフォーム構築力で高評価

総合評価スコアでは、NTT ぷららの「ひかりTV」が 80.0 点(100 点満点中)と最高ポイントとなり、総合評価 AA を獲得して最優秀賞となった。評価対象の 8 分野のうち、先進性、コアバリュー、顧客志向性(サービス)、顧客志向性(機能)の 4 分野で最も高い評価を得た結果だ。

ひかりTVは、約 15 万本のビデオ・オン・デマンド(VOD)サービスを提供するほか、映画やアニメ、スポーツなどの 4K コンテンツを約 3,000 作品そろえる。映像以外にもゲームや音楽配信、ショッピングなどのサービス展開やマルチデバイスへの対応も強化した。「ひかりTV for docomo」、「ひかりTV for NURO」、「ひかりTV with CATV」など会員基盤のある事業者との提携を積極的に進めるほか、国内の番組制作会社やアニメ制作会社との資本提携などを強化するなど、オリジナルコンテンツの拡充で実績を積んだことが高く評価された。2019 年 7 月には NTT

ドコモのグループに入ることから、次世代通信規格 5G に向けた技術や会員基盤を活用し今後のビジネス拡大に注目が集まっている。

第 2 位は Amazon が提供する「Amazon ビデオ」で、総合評価スコア 79.9 点を獲得し、1 位のひかりTVに 0.1 ポイント差まで追いつけた。Amazon プライム会員の幅広い世代から支持を得る充実したコンテンツのラインアップが評価された結果と言える。世界配信による Amazon スタジオのオリジナル作品とローカルの嗜好に合わせたコンテンツの制作・配信を同時並行で進めており、手軽に低価格でオリジナルコンテンツが見られることから顧客満足度の項目で高評価を得た。

第 3 位は Netflix が提供する「NETFLIX」で、総合評価 76.2 点を獲得。前回の 2018 年調査時の 6 位から 3 位へ躍進した。サービスに対する価格妥当性やコンテンツの使いやすさから、質の高いオリジナルコンテンツの調達に注力したことで、ユーザーからの支持を獲得した。加えて、全世界同時配信などのグローバル展開に強みがあり、審査員特別賞をあわせて受賞した。今後のスマート TV サービス業界のあり方に先鞭をつけたといえよう。

■課題は、スマートフォン中心の視聴スタイルに合わせた対応

今年の「スマート TV サービス AWARD2019」では、従来の映像配信サービスからスマート TV サービスへの移行を見据えた 4K 映像やコンテンツラインアップの拡充に加え、ユーザーを囲い込むオリジナルコンテンツの調達や制作に積極的に取り組んでいる事業者が高いスコアを獲得する結果となった。視聴デバイスのマルチ対応やユーザーの好みに合った作品のレコメンドも評価のポイントとなっている。今後もさらに日本独自のローカルコンテンツの重要性が増すほか、スマートフォン中心の視聴スタイルに合わせたプレビューやコンテンツの時間などへの対応が求められるとMM総研は判断する。

《スマート TV サービス AWARD 概要》

本 AWARD の審査ではコンシューマ向けに多チャンネル放送や VOD などの動画サービスを中心に、様々なコンテンツを提供する主要な 10 事業者(詳細は後述)を対象に調査した。

「先進性」、「市場性」、「コアバリュー」、「顧客志向性(サービス)」、「顧客志向性(機能)」、「顧客満足度」、「スマート TV サービス期待度」、「スマート TV サービス認知度」の全 8 分野について、合計 32 項目の重要度を加味し、ポイント化して評価しました。また一部の項目については各サービスのユーザー合計 2,000 人を対象にアンケート調査を実施し、利用者の声も反映させている。

MM総研では、スマート TV サービスを「インターネット等を通じて映像や様々なエンタテインメントサービスを提供し、デバイス間連携による機能拡張を実現するテレビ端末や STB を利用したサービス」と定義し、市場発展に影響を与えるサービスを総合的に調査・評価している。

※ひかりTVのテレビ(放送)サービスは、株式会社アイキャストが提供

※調査対象の 10 事業者およびサービスは以下の通りです

Amazon「Amazon ビデオ」、HJ ホールディングス「Hulu」、NTTドコモ「dTV」、NTT ぷらら「ひかりTV」、ケイ・オプティコム「eo 光テレビ」、ジュピターテレコム「J:COM TV」、スカパーJSAT「スカパー！」、Netflix「NETFLIX」、Perform Investment Japan「DAZN」、U-NEXT「U-NEXT」

■有識者のコメント

各有識者による代表的なコメントは以下の通りです。

・安田 浩氏(東京電機大学長/東京大学名誉教授):

「視聴デバイスの 4K 対応や海外事業者との提携など、しっかりと対応できるかどうかが必要となるだろう。5G の登場による各社の戦略に注目している。スマート TV サービスの内容が多様化したことにより、各サービスの特長や特異性に着目した評価の仕方が必要になってくる。」

・北村 森氏(商品ジャーナリスト/サイバー大学 IT 総合学部教授):

「ここ 1~2 年で Amazon や Netflix などの海外勢の伸びが顕著に表れている。オリジナルコンテンツの強化が向こう 3 年の業界のあり方を示唆しており、調達したコンテンツのローカライズなどの各社の戦略に期待したい。初期設定のハードルの低さや価格妥当性を含めて、ユーザーの閲覧頻度をいかに高めるかが重要となってくるだろう。」

・森 祐治氏(電通コンサルティング代表取締役社長・シニアディレクター/亜細亜大学都市創造学部・大学院アジア国際経営戦略研究科特任教授):

「レコメンデーション機能の高さも顧客満足度の向上につながっており、ユーザーが新たな発見を得られる点も評価のポイントとなるだろう。目新しいオリジナルコンテンツが揃うサービスへの期待度は高い。今後は、多数のコンテンツを揃える総合プラットフォーム事業者と映像サービスに特化する事業者について、両者の動向が注目される。」

・中島 洋(MM総研 代表取締役所長)

「サービスの多様化が急速に進んでいるので、評価軸の設定がますます難しくなっている。今後の評価の重要ポイントは5Gの登場によるスマホ向けサービスの開拓だろう。高速化、高詳細化などの従来サービスの延長線上にある品質向上よりも、スポーツ中継の視聴者選択による多地点情報鑑賞などの視聴者のわがままが実現できるようなサービスが勝負になるのではないかな。」

■スマート TV サービス AWARD2019 ロゴマーク



詳細は別紙をご参照ください。

同調査の概要は、次の通り公開しています。 URL: <https://www.m2ri.jp/news/>

=====

■ 報道関係お問合わせ先

(株)MM総研 担当 : 横森、加太、小野寺、川村

所在地 : 東京都港区芝公園 2-6-3 芝公園フロントタワー

電話番号 : 03-5777-0161 ホームページ:<https://www.m2ri.jp>

■ 本資料の掲載について

本リリースの情報は、下記の日時以降に掲載して頂きますよう、ご協力お願い申し上げます。

新聞・雑誌 : 3月27日(水) 朝刊より

通信社、テレビ、ラジオ、Web サイト : 3月26日(火) 午後1時より

■ 掲載時における注意事項

- * 本ニュースリリースに関する出典表記は「MM総研」として下さい。
- * 本ニュースリリースに掲載された資料はMM総研の取材等による調査結果及び推定に基づいて作成したものです。
またこれらのデータは資料作成時点におけるものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

【別紙】

■格付け基準

格付け	評点	内容
AAA	86～100 点	最高水準に項目基準を満たしており、大変優れた価値が認められる
AA	71～86 点未満	項目基準を高く満たしており、優れた価値が認められる
A	56～71 点未満	項目基準を適格に満たしている
B	41～56 点未満	項目基準をある程度満たしているが、注意すべき要素がある
C	41 点未満	項目基準に対して不安がある

■「スマート TV サービス AWARD2019」実施期間

2019 年 2 月 20 日～3 月 1 日

■有識者会議メンバー



安田 浩 氏（東京電機大学長/東京大学名誉教授）

東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程終了後、NTTにて画像情報通信技術の研究開発を行う。JPEG、MPEG 規格標準化の功績により、96 年エミー賞受賞。09 年に紫綬褒章受賞。画像処理、画像符号化、知的財産保護、映像製作・配信の為の感性工学、インターネットセキュリティなど、幅広い研究分野で活躍。



北村 森 氏（商品ジャーナリスト/サイバー大学 IT 総合学部教授）

日経トレンディ発行人 兼 編集長を経て、08 年に独立。商品ジャーナリストとして、各種商品の試用評価やヒット商品の分析を手がけている。「サンデー毎日」誌上の連載コラム「北村森の一生逸品」など、現在8媒体での連載執筆に携わるほか、テレビ・ラジオ番組のコメンテーターも多数務める。自治体と連携し、地域産品を活かした地域おこしプロジェクトにも従事。著書に『途中下車』（河出書房新社）、『ヒット商品航海記』（日本経済新聞出版社／共著）などがある。



森 祐治氏（電通コンサルティング代表取締役社長・シニアディレクター/亜細亜大学都市創造学部・大学院アジア国際経営戦略研究科特任教授）

国際基督教大学(ICU)卒業後、NTTを経て ICU 博士前期課程修了。同大助手を経て、奨学生として米国に留学(MBA、Ph.D)後、早稲田大学大学院博士課程単位取得修了。米国でベンチャー創業・売却を経験。日米マイクロソフトを経て、マッキンゼーへ。その後、コンテンツ投資会社を経由して、電通コンサルティングに参加。2017 年より代表に就任。亜細亜大学・大学院、青山学院大学国際マネジメント研究科、デジタルハリウッド大学大学院などで教鞭も執っている。